令和8年度　視察研修の記録

10月30日（金）　福島県大熊町「中間貯蔵事業情報センター」

中間貯蔵施設は、福島県内の除染で発生した土壌や廃棄物を最終処分するまでの間、安全かつ集中的に貯蔵するための施設です。除去土壌の量は東京ドーム約11杯分（約1,400万㎥）におよび、福島県外での最終処分の実現に向けては、処分量を減らすことが重要です。



職員から、除染状況の説明を聞く参加者



埋立地で現状説明を聞く



線量計で放射線量を確認　自然界の放射線量レベルまで落ち着いています。



広大な草地の下に無害化された除染土が埋設されています



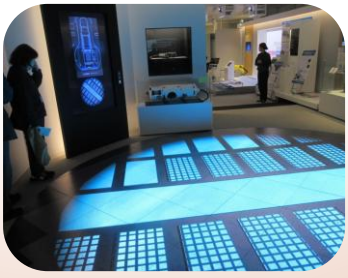
「除染施設」かつて毎日大型ダンプカーで連日搬入された汚染土はここで処理されました。ピーク時には大型ダンプが何台も並び、急ピッチで除染作業が行われていました。今ではほぼ搬入は終了しています。

10月30日（金）　福島県富岡町「東京電力廃炉資料館」

国内外の多くの皆さんに、原子力事故の事実と廃炉事業の現状を確認する場として、東京電力旧「エネルギー館」内に、「東京電力廃炉資料館」が設置されました。



廃炉に向けての状況説明



炉心のイメージを見る



デブリを取り出す装置（模型）





一部取り出しに成功したデブリのレプリカ

10月31日（土）福島県いわき市「いわき震災伝承みらい館」

「いわき震災伝承みらい館」は、東日本大震災での津波被災地に立地し、パネルや映像、被災した学校の備品など多様な展示を通して、いわき市における震災の記憶や教訓を伝えています。



津波で壊滅的な被害を受けたいわき市の薄磯地区。海を臨む「いわき震災伝承みらい館」で、被害の様子を聞いて大きな衝撃を受けました。



「震災語り部」大谷さん（中央青のジャンパー）から、地震から津波発生までの状況を聞くことが出来ました。体験者から直接聞く話からは、「真実」が伝わり、深く胸に刻むことが出来ました。



津波が押し寄せた「薄磯海水浴場」とてもきれいな海岸です。



美空ひばりさんの「みだれ髪」で有名な「塩屋埼灯台」はこの海岸の近くです。



それぞれ津波への思いを胸に刻み、災害に対する心構えを、再認識しました



福島第2原発では廃炉作業が進められています。



車窓から見た風景　かつて田んぼや畑だったと思われますが、いつの日か回復する日を願っています。



まだ、空き家が多い中、少しずつ移住者が来るようになったようです。